



日・フィジー共同声明(概要)

令和7(2025)年11月
外務省大洋州課

◆フィジーとの間で初のパートナーシップである「ロマヴァタ・キズナ・パートナーシップ」を立ち上げ、二国間関係を格上げ。 ※「ロマヴァタ」はフィジー語で「結束」の意味

1. 共通の価値・原則の共有

- ◆ 自由、民主主義、法の支配、人権、持続可能な開発、紛争の平和的解決等の価値を共有。
- ◆ FOIPとランブカ・フィジー首相提唱の「平和の海」宣言の価値・原則は共通であることを歓迎。

2. 主要な協力分野・取組

(1)ガバナンス・社会経済成長 司法協力を通じた法の支配維持のための制度的能力強化。貿易・投資(特に農業・水産業)、観光、中小企業連携の促進。コルレス銀行撤退問題への対処。質の高い持続可能なインフラ整備(ICT含む)を通じたフィジーの社会経済発展支援。

(2)気候変動・災害強靱性 太平洋島嶼国にとって気候変動が「存続に関わる唯一最大の脅威」との緊急性を共有。PALM10で発表した「太平洋気候強靱化イニシアティブ」の下での連携強化。オファーク型協力「フィジー及び太平洋地域の防災・早期警戒態勢強化」を通じた案件の実施。

(3)安全保障協力 海洋安全保障(IUU漁業対策、違法薬物取締り)、警察・法執行協力の実施。太平洋主導の安全保障対応能力の強化。防衛協力の強化(防衛大学校での士官候補生受入れ、寄港、能力構築、当局間対話)。OSA(政府安全保障能力強化支援)を通じた協力。

(4)人的交流 教育(国費留学生、JENESYS、人材育成奨学金(JDS)等)、文化を通じた人的交流の促進。日本語教育機会の拡大。スポーツ(ラグビー等)分野の協力(両国ラグビー協会間覚書の歓迎。)

3. 地域・国際協力及び今後の方針

- ◆ 太平洋地域の一体性・「2050年戦略」の重要性。PALMプロセスを通じた信頼と「キズナ」の深化。
- ◆ ALPS処理水の放出に係る日本の取組へのフィジーの信頼表明を評価。法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序、平和的紛争解決、力又は威圧による一方的な現状変更の試みへの反対。
- ◆ PALM・中間閣僚会合を含むハイレベル二国間訪問、年次政策協議の実施。